

美山、東郷地区を中心とする児童の自然体験事業へ
向け議論を深めた事業検討委員会―東郷公民館



美山、東郷地区が事業連携

あすNPOと協議会発足

農家で宿泊 自然体験を

県内外小学校に働き掛け

農山村を舞台に、まちなかの児童の自然体験活動を進めようと、福井市美山、東郷の2地区と同市のNPO法人「自然体験共学センター」が連携し、事業展開を計画している。11日に協議会を発足、県内外の小学校に働き掛け、農家での宿泊やキャンプなど、地域の自然や人的資源を生かし推進していく。

農林水産省の「グリーン・ツーリズム促進等緊急対策事業」を受けて実施。主に児童が農家民宿などに泊まり、地域との交流を深め、宿泊型の体験活動を進めていく。両地区を中心に、山や川などの豊かな自然環境や地域の「達人」を生かす。いずれは市内全域で連携していききたい考え。

体験プログラムを作る。また説明、研修会を開き、児童を受け入れる農家民泊を増やしていく。

展開する同NPOは、昨夏のキャンプ事業で東郷地区と連携、県内児童の民泊体験を実施している。

今年中にメンバーが大坂の小学校などで広報活動を行うほか、パンフレットを作成し、県内や関西の約1千校に送付する予定。

美山地区の旧上味見小に拠点を構え、児童らの自然体験プログラムを

事業検討委員会で事務局を務める同NPOの辻一憲理事長は「両地区の参加者はみな熱い思いを持っている。まずは受け入れ実績をつくり、地域活性化にもつなげていきたい」と話している。

